

資料 4.1 国語の採点基準 K01 (項目番号 k01~k04)

K01

「きみの友だち」

問四

- <正答の条件>
- ① Aさん、またはBさんのいずれかを選択している
 - ② 本文を引用しながら解答している
 - ③ (Aさんを選んでいる場合) Aさんの意見に共感する理由を適切に説明している
- * 引用は、「～という」など引用の表現か、「ぶつかった／選ばれた／選ばなかった／選んできた／選んでいく」などキーワードが必要
- * 「実際の距離」と「心の距離」の両方について言及が必要
- ④ (Bさんを選んでいる場合) Bさんの意見に共感する理由を適切に説明している
- * 「ボールの動き」と「心の距離」の両方について言及が必要
- ⇒心の距離について、片方のみだけでは不十分 例) 中西くんのまっすぐな気持ち
 - ⇒心の距離について、片方のみだけでは不十分 例) 中西くんのまっすぐな気持ち
 - ⇒心の距離のかわりに「会話の動き／変化／やりとり」について述べている解答も許容

類型	解答の内容	意図
1	条件①、②、③を満たしている	◎ Aさん完全正答
2	条件①、②、④を満たしている	◎ Bさん完全正答
3	条件①、②を満たしている	× 理由が適切でない (登場人物の取り違えも含む)
4	条件①、③を満たしている あるいは、条件①、④を満たしている	× 本文の引用が不十分
5	条件①のみを満たしている	× 選択肢のみ 理由の未回答など
9	上記以外の解答	× 選択肢の選択忘れ、複数選択など
0	無解答	×

<解答例>

- 【類型1】
- ・ (Aさんを選択) 二人の距離が近づいたり離れたりしながら会話が進んでいて、最後に中西くんが怒った時に、怒鳴りながらきみの前に出て捕ろうとして、二人がぶつかったから。
 - ・ (Aさんを選択) 「きみの距離は縮まらない」という言葉が、二人の心にも当てはまるところから。
- 【類型2】
- ・ (Bさんを選択) ボールが遠ざかったとき、「逃げられた」と、きみが思っているから。
- 【類型4】
- ・ (Bさんを選択) 中西くんが横に角度をつけてボールを投げたり、怒りながら投げたボールをきみが横取りしたり、ボールを間にして二人の気持ちの変化が分かるから。

問一

類型	解答の内容	意図
1	1を選択している	
2	2を選択している	
3	3を選択している	
4	4を選択している	◎
9	上記以外の解答	
0	無解答	

問二

類型	解答の内容	意図
1	1を選択している	
2	2を選択している	◎
3	3を選択している	
4	4を選択している	
9	上記以外の解答	
0	無解答	

問三

類型	解答の内容	意図
1	1を選択している	
2	2を選択している	
3	3を選択している	◎
4	4を選択している	
9	上記以外の解答	
0	無解答	

★条件①：選択肢の選択肢れについて

AもしくはBに丸がついていない場合は類型9となるが、記述の中で「A/Bに共感する（A/Bを薦ぶ）」ということが明記してあれば、AあるいはBを選択したものと採点する。

★条件②：本文の引用について

- ・引用の表現を含み、本文の内容に触れている
- ・引用の表現は含まないが、引用とみなせるキーワードを書いている
上記の、いずれかの要件を満たす解答を引用ができていると判断する（以下に詳述）。

★条件②：引用の表現として認める記述

以下のいずれかの形式に当てはまる部分を引用部とみなす。

「（引用部）」	○引用部に引用であることが分かる以下の表現を付ける ～という / ～とある ～ところ / ～部分 ～など / ～のような
---------	---

上記のいずれかの形式に当てはまった上で、引用部で本文中の内容に触れていることが読み取れれば、条件②を満たすものと判断する。（本文をそっくりそのまま抜き書きしていてもよい）

- 《例》 ・「膝ね返ったボールは遠ざかっていくゴロになっていく」とあるが、～
・中西くんの投げたボールが遠ざかっていくところで、～

★条件②：引用のキーワードとして認める記述

引用の表現を含まない解答については、以下の3つのキーワードを含む場合のみ、引用ができているものと判断する。

引用が十分（キーワードとして認める）	引用が不十分
<ul style="list-style-type: none"> ●ぶつかった ●「ぶつかる」の活用形 ぶつかる／ぶつかって 等 ●逃げられた ●「逃げられる」の活用形 逃げられる／逃げられて 等 ●遠ざかっていく ●「遠ざかる」の活用形 遠ざかる／遠ざかって 等 ●「遠ざかっていく」の活用形 遠ざかっていって／遠ざかっていった 等 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ぶつけた／ぶつける／ぶつけて ▲逃げた／逃げる／逃げて ▲遠くなった／遠くなる／遠くなつて <p>※冊形が変わっているためキーワードだけでは引用とみなさないが、「引用の表現の形式を満たしていれば、引用とみなせることに注意</p>

なお、上記キーワードの選定理由は、

- ・本文において象徴的な箇所であること。
- ・本文において「**実際の距離・ボールの動きを表しているながら、同時に「心の距離」をも表すことができる**」表現であること。

の、2点である。

これらの表現を使うと、後者の点に気づいて解答しているように読めるため、本文を十分に精まえた上で書いた解答として認められる場合が多い。

- 《例》 ・最初は離れていて会話も少なかったけど、怒って言い争い始めて最終的にぶつかったから。

★条件③④：共感する理由について

- ・条件③ 実際の距離と心の距離、両方への言及が必要
- ・条件④ ボールの動き（あるいは会話の動き）と心の距離、両方への言及が必要

★条件③④：「心の距離」への言及として認められる記述

心の距離への言及が十分	心の距離として不十分
<p>● 二人の心について触れていることが直接分かる表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心（気持ち）の距離 ・ 二人の心（気持ち） ・ お互いの心（気持ち） <p>● 二人の心の距離がどのような状態であるかを形容する表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 離れている ・ 近づいている ・ 逃げられた ・ ぶつかった ・ 怒っている （一人の心しか表していないが、怒る対象があるため、心の距離についての言及と認める） ・ 仲が良くなる <p>※ 「仲が良くなる」は一見馴染みのように思えるが、本文中でボジションの語り合いをするなど排み寄りが見え、一脈に否定はできない。本文とはつきりと矛盾していない限りは多様な解釈が成立するため、形容の中心については問わない。二人の心の距離について言及する表現であればよい。</p>	<p>▲ 実際の距離か心の距離が区別のつかない表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二人の距離 （実際の距離について言及していると判断） <p>▲ 片方の心についてしか触れていない表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まっすぐな気持ち ・ 興奮している
<p>● (条件④)について) 会話の動き・変化・やり取りに触れている表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会話が増えている ・ 二人のやりとりが活発になっている <p>※ 添削文において、Bさんが「わたしは、二人の心の距離は、ボールの動きで表されていると思うよ。会話に合わせてボールの動きも変わっていくからね」と言っている。心とボールの連動が、会話とボールの連動に置き換えられることが宗像されているため、「会話＝心の距離」とみなしている。</p>	

★本文の課題について

「中西くんがピッチャーにふさわしくないのに、和泉がお世辞を言っている」などの曲解めいた記述については、はっきりと本文と矛盾しているわけではなく、解答者個人の解釈を否定できないため、無視する。

ただし、登場人物の取り違えについては、本文を正しく認識できていないために解答が意味不明となるため、理由が不適切と判断し、正答の条件③あるいは④を満たさないものとする。

資料 4.2 国語の採点基準 K02 (項目番号 K05~K08)

K02 『「おはよう」と「こんばんは」の比較 ～不安定な「おはよう」～』

問一	類型	解答の内容	意図
	1	1を選択している	
	2	2を選択している	
	3	3を選択している	
	4	4を選択している	◎
	9	上記以外の解答	
	0	無解答	

問二	類型	解答の内容	意図
	1	1を選択している	◎
	2	2を選択している	
	3	3を選択している	
	4	4を選択している	
	9	上記以外の解答	
	0	無解答	

問三	類型	解答の内容	意図
	1	1を選択している	
	2	2を選択している	◎
	3	3を選択している	
	4	4を選択している	
	9	上記以外の解答	
	0	無解答	

問四

<正答の条件>

- ① 「おはよう」の使われ方に対する著者の考え方を、本文に基づいて説明している
- ② 「おはよう」の使われ方に対するAさん・Bさんの考え方を、会話文に基づいて説明している
- ③ (条件①、②を満たした上で) 著者の考え方と、Aさん・Bさんの考え方を適切に比較しながら解答している

類型	解答の内容	意図
1	条件①、②、③を満たしている	◎ 完全正答
2	条件①、②のみを満たしている	× 比較が不適切
3	条件①のみを満たしている	× A・Bさん不十分
4	条件②のみを満たしている	× 著者不十分
9	上記以外の解答	×
0	無解答	×

<解答例>

類型1

・著者はいさつことばとそれが使われる時間に着目し、「おはよう」は時間による定義ができないので不安定なことばだと述べているが、AさんとBさんは「おはよう」はそもそも個人的な基準によって使われてきたことばだと言っている。

・著者は、おはようをこれから不安定になると言っているが、Aさんたちは使い方が違って当たり前だと言っている。

・時間で考えるか、時間以外で考えるかで基準が変わる。

・「著者」[Aさん]などを明示していないが、考えの中身を提示しているので条件①もあり、③も満たす。

類型2

・著者は個人の考え方に強く影響されると言っていて、AさんとBさんは人によって使う時間が違って当たり前だと言っている。

・内容は正しいが、比較になっていない

類型3

・「おはよう」の使い方について、著者は個人が朝を何時までと考えるかによって決まると思っていて、AさんとBさんはそうではないと考えている。

・Aさんたちの考えの提示が不十分

類型4

・AさんBさんは、おはようの使われる時間は違って当たり前だと言っているが、著者は逆のことを言っている。

・著者の考えの提示が不十分

・著者はおはようをいつでも使えると考えているが、AさんBさんは、江戸時代は朝ごはんを食べるまでに使っていたと言っている。

・下線部は著者の考えとして適切ではない

★条件①②：著者の考えたとAさん・Bさんの考え方の整理

著者	Aさん・Bさん
<p>○ 時間を基準に考えている (朝が何時ごろまでとすとかという「個人の考え方」に影響される)</p> <p>○ 使われ方に明確な基準がない</p> <p>○ 自然現象と関係がない (「日の出から○時間後まで」というとらえ方はとられていない)</p> <p>○ 個人差が大きく現れる</p> <p>○ 地域差は整然としては現れない</p> <p>○ 使う時間帯は季節によって差がない</p> <p>○ (今後) 時間を問わず用いられるようになる可能性がある</p> <p>○ (今後) 用法が不安定になっていく可能性がある <small>※不安定の言い換えとして、「(著者が) 危機感を持っていい」「(著者が) 好ましくなく思っている」というネガティブな言い回しも、著者の考えとして認める。</small></p>	<p>Aさん・Bさん</p> <p>○ 時間以外に基準がある (江戸時代は朝ごはんを食べるまでが「おはよう」)</p> <p>○ 個人の習慣が基準になっている</p> <p>○ 使われ方に明確な基準がある</p>
<p>▼以下は「こんばんは」についての考え方の誤り</p> <p>× 自然現象によって規定される (日の入りの時刻に左右される)</p> <p>× 個人差は現れにくい</p> <p>× 地域間の差ははっきり表れる</p>	

★条件③：比較の仕方について

「どのような点が違うのか」を問うているので、共通点を述べたり、比較にならない内容を取り上げたりした場合は、条件③を満たさない

<条件③を満たす組み合わせの例>

- 時間を基準に考えている と ○ 時間以外に基準がある
- 時間を基準に考えている と ○ 個人の習慣が基準になっている
⇒使われ方の基準を時間と考えるか、それ以外と考えるかで比較している
- 使われ方に明確な基準がない と ○ 使われ方に明確な基準がある
⇒明確な基準の有無を比較している
- (今後) 時間を問わず用いられるようになる可能性がある と ○ 明確な基準があれば、(今後) 使い方は統一される
⇒今後、使われ方の差が広がっていくか狭まっていくかで比較している
- (今後) 用法が不安定になっていく可能性がある と ○ (昔から) 人によって使う時間が違つて当たり前
⇒個々人の使い方の差が、これから発生するのか、もともとあったのか、で比較している

<条件③を満たさない組み合わせの例>

- 個人差が大きく現れる と ○人によって使う時間が違つて当たり前
⇒個々人の使い方に差があるという共通点しか述べていない
- 地域差は整然として現れない と ○時間以外に基準がある
⇒比較する上での一定の基準軸が存在せず、比較になっていない

★著者の仕方の比較について

AさんとBさんは「おはよう」の使われ方の違いについて、著者とは考え方が異なります。
著者の考え方と、Aさん、Bさんの考え方がどのように違うのか、説明しなさい。

上記、設問文を真っ正直にとらえて、「おはよう」の使われ方の差について著者とAさん・Bさんが分析する際のアプローチの仕方を比較している解答が一定数存在します。設問文に対する答えとして誤りと言えないので、以下のような内容が十分に書かれている場合、正答としました。

材料の比較

- ・著者は「アンケート」をもとに考えているが、Aさん・Bさんは「歴史」をもとに考えている。
- ・著者は「時間」をもとに考えているが、Aさん・Bさんは「昔のこと」をもとに考えている。

時期の比較

- ・著者は「今(あるいは、今後)」のことに着目した考え方が、Aさん・Bさんは「昔」のことに着目した考え方になっている。

※著者が「自然現象」や「季節」を引き合いに出して考えているという解答は、著者の考えが不十分と判断しました。確かに自然現象について検討はしているが、「おはようの使われ方の違い(差)」と関係がないため。

資料 4.3 国語の採点基準 K03 (項目番号 K09~k12)

K03 「枕草子 一三八段」

問一	類型	解答の内容	意図
	1	1 を選択している	
	2	2 を選択している	
	3	3 を選択している	◎
	4	4 を選択している	
	9	上記以外の解答	
	0	無解答	

問二	類型	解答の内容	意図
	1	1 を選択している	
	2	2 を選択している	
	3	3 を選択している	
	4	4 を選択している	
	9	上記以外の解答	
	0	無解答	

問三	類型	解答の内容	意図
	1	1 を選択している	
	2	2 を選択している	
	3	3 を選択している	
	4	4 を選択している	◎
	9	上記以外の解答	
	0	無解答	

問四
＜正答の条件＞

- ①いつもは代筆の手紙にも関わらず、今回は代筆ではなかったことについて触れながら解答している。
- ②花びらに書く、ということが趣向に凝った手紙であることについて触れながら解答している。
- * 山吹の花びらに書く、ことで、山吹が「口無し」の意を表すときもあることから、「言わで思うぞ」の表現を一段、奥のあるものとしている、ということについて触れながら解答していれば特によい。
- ③手紙（花びら）には「言わで思うぞ」と書いてあったことに触れながら解答している。

類型	解答の内容	意図
1	条件①、②、③のすべてを満たしている	◎
2	条件①、②、③のうち2つを満たしている	○
3	条件①、②、③のうち1つを満たしている	○
4	手紙をもたらったという事実そのものや、長女の言葉のみが清少納言を中宮の元に参上させたきっかけになった、という説明がされている	×
5	「言わで思うぞ」の上の句が頭に浮かんでこないから、という説明がされている	×
9	上記以外の解答	×
0	無解答	×

★正答の条件①について
「中宮が直接書いている」ことがはっきり読み取れれば、条件①を満たすこととする。

記述例	判断
代筆ではない 手紙	条件① ○ 「代筆でない」「直筆」という言葉だけで中宮が書いたことが分かる
直筆の 手紙	条件① ○ 「直接」「書く」などが入ることにより中宮が書いたことが分かる
中宮からの 直接の 手紙	条件① ○ 「直接」「書く」などが入ることにより中宮が書いたことが分かる
中宮が 書いてくれた 手紙	条件① × 中宮が差し出していることは分かるが直接書いたかどうか不明
中宮からの 手紙	条件① × 中宮が差し出していることは分かるが直接書いたかどうか不明
中宮が 「言わで思うぞ」と 書いてくれた	条件① ○ 主語があることにより中宮が書いたことが分かる
「言わで思うぞ」と 書いてくれた	条件① × 主語がないと誰が書いたか不明

★正答の条件②について

条件②を満たすには、「花びらに書いてある」+α(趣向)にあたる記述が必要

《例》

- ・花びらに文字が書かれていて、すばらしい(盛っている/良い/趣がある)と思ったから。
- ・たった一枚の花びらに、そこらにしみ出るような強い思いが込められていたから。
- ・花びらが入っていて、戻ってきてほしいという気持ちを感じたから。
- ・花びらが入っていて、うれしかったから。
- ・花びらが入っていて、楽しみやすさやめくいくさいから。 ⇒以上、条件②を満たす

★正答の条件②:「花びら」の言い換えについて

「山吹」「花」「花弁」「くちなし」 ⇒ 「花びら」の言い換えとして認める

他の植物の名前(藤・桜など)、木の葉 ⇒ 無視要素とする

《例》

- ・山吹の葉に書く ⇒ 「山吹」も「花」も花びらの言い換えとして認められるので十分
- ・藤の花びらに書く ⇒ 「藤」は無視要素だが、花びらが言えているので十分
- ・山吹の葉に書く ⇒ 「葉」は無視要素だが、「山吹」が花びらの言い換えとして認められるので十分
- ・葉に書く、木の葉に書く ⇒ 無視要素しかないため、不十分

★正答の条件③について

条件③を満たすには、「言わで思うぞ」という言葉そのものが必要。

《例》

- ・清少納言が手紙の中の言葉(文/文字/メッセージ/内容)に感動したから

条件③を満たさない

また、「言わで思うぞ」が書いてある場合も、以下のように他の記述と合わせて条件③にあたるかどうか判断する必要がある。

《例》

- ・「言わで思うぞ」と書いてあったから
- ・「言わで思うぞ」を読んだから/見たから ⇒ 条件③を満たす
- ・「言わで思うぞ」が思い浮かばなかったから
- ・「言わで思うぞ」が分からなかったから

⇒ 以上の記述だけでは条件③を満たさないため、他の記述と合わせ類型5に分類されるかどうかを判断

★類型4「手紙をもらった事実」について

手紙の「何」に着目したかは不明だが、手紙そのものに着目している解答があてはまる。

《例》

- ・手紙の中に花びらが入っていたことが、すばらかったから。 ⇒ 類型3 (条件②を満たす)
- ・手紙の中に花びらが入っていたから。 ⇒ 類型4 (条件②が不十分)
- ・手紙をもらったから。 ⇒ 類型4 (手紙そのものに着目)
- ・手紙を読んで、戻ってきてほしいという気持ちが伝わってきたから。 ⇒ 類型4 (手紙そのものに着目)
- ・戻ってきてほしいという気持ちが伝わってきたから。 ⇒ 類型9 (手紙に着目していない)

★類型4「長女の言葉」について

形式もしくは内容は内容から、長女の言葉と特定できることが必要。

【形式】

- ・「長女が ～ と言っている」「長女の話から」など、長女の言葉であることが特定できる

(解答例) 長女と話して、戻ってきてほしい気持ちが伝わってきたから など

【内容】

- ・長女の言葉のとおりの内容(以下のいずれか)が書かれている

{ 「中宮が時々清少納言を思い出していること」

{ 「他の女房がなぜ戻らないのかと言っている(心配している)」

(解答例) 他の女房たちも自分のことを心配していると分かっていたから など

以上のいずれが該当する場合は、長女の言葉と特定し、他の要素がない場合は類型4と判断する。

ただし、長女の言葉と特定できない場合は、長女の会話の内容ととらず、他の内容から類型を判断すること。

内容について、上記以外の記述の場合(中宮が清少納言に戻ってきてほしいと思っている、など)は、そのきっかけとなる情報源が、代筆の手紙や今回の手紙など、さまざまに考えられ、どの内容から清少納言が内裏への参上を欲望されたのか特定できない。

(解答例) 中宮が戻ってきてほしいと思っていることが分かっていたから など